

AJELC Newsletter

The Association for
Japanese and English Language and Culture

第66号 2024年2月17日

		---目次---	
巻頭言	水澤 祐美子	1 第83回例会報告	木村 郁子 9
会長つれづれ考	小川 貴宏	3	仲谷 ちはる 11
第18回年次大会	安井 泉	6	Marcel Van Amelsvoort 12
	小池 生夫	7 事務局だより	14
	奥津 文夫	8	

オーストラリア先住民に対する配慮と意識の高まり

水澤 祐美子

オーストラリアでは2023年10月14日、24年ぶりに憲法改正を問う国民投票が行われた。“The Voice”と呼ばれる今回の国民投票は、先住民の地位を憲法に明記し、彼らの声を政策に反映する諮問機関を創設するか否かを問うていた。先住民の全国民に対する人口割合は、2021年6月の時点で全人口の3.8%を占めるが、彼らは1971年に国勢調査の対象となるまで、オーストラリア国民として計上さえされていなかった。現在も彼らの大半は、収入や教育、寿命などで全国平均を下回り、一方、幼児死亡率は高く、自殺率においては2倍に跳ね上がる。こういった状況を改善するため、Albanese首相率いる労働党政権が憲法改正の国民投票に踏み切った。

投票日が決定した2023年8月30日、

テレビやインターネットのニュースは国民投票一色だった。以来、週末になると、人が多く集まる場所では“yeses”（賛成派）と“noes”（反対派）の街頭演説がそれぞれに行われていた。シドニー湾に近い高級住宅地では、“Vote Yes!”のポスターを目にすることが多く、“Vote Yes!”がプリントされたTシャツを身につけている人にも出会った。今夏のオーストラリア滞在中、地方農村部に行く機会もあったが、街頭演説以外で“Vote No”という反対派のポスターやTシャツを目にすることはなかった。“Vote Yes!”と“Vote No”におけるエクスクラメーション・マークの有無は、勢いを感じさせる“yeses”と、改憲に消極的な“noes”を象徴しているように感じられた。

国民投票の結果、大都市圏や首都キャンベラがあるオーストラリア首都特別地域では“yeses”が過半数を占めていたものの、全国では“noes”が“yeses”を上回り、憲法改正は否決された。なお、オーストラリアの選挙制度では、投票しないと罰金（今回は20豪ドル）が課せられるので、今回の投票率は85%近くになるのではないかと予想されている。

今回の国民投票は否決となったが、近年オーストラリアでは、先住民や彼らのことばと文化に対する配慮や意識の高まりが顕著になっている。以下に、今夏のオーストラリア滞在で経験したことを交え、十数年前の筆者の留学時には見られなかったいくつかの例を挙げたい。

世界的なPolitical Correctnessの潮流と国内の先住民に対する意識の高まりを受けて、先住民の呼び方に変化がみられてきている。以前の“abo”や“aborigine”といった呼び方が否定的に受け取られ、近年“the Aboriginal and Torres Strait Islander peoples”や“the First Nations (peoples)”, “the First Peoples of Australia”と呼ばれるようになった。“Peoples”が複数形となっている理由は、先住民にも多くの部族が存在することによる。

シドニー湾を訪れると、シドニーハーバーブリッジの頂上に掲げられている旗の様相が違っていた。オーストラリアの国旗（Australian Blue Ensign）はそのままだったが、2022年7月より、もう1つの旗がニューサウスウェールズ州の州旗からオーストラリア先住民の旗（Australian Aboriginal Flag）に変更されていた。当初案は、国旗と州旗に加え、オーストラリア

先住民の旗を3本目の旗として掲げる予定であったが、約23億円の工事費に批判が殺到し、州旗に代わりオーストラリア先住民の旗が掲げられることになった。オーストラリアには国旗のほかに、先述のオーストラリア先住民の旗とトレス海峡諸島民の旗（Torres Strait Islander Flag）という2つの公式な旗が存在する。どちらの旗も民族性を表象し色彩が豊かである。

オーストラリアの国歌にも先住民への配慮による変化があった。国歌 Advance Australia Fair の一部が、2021年1月1日に“*For we are young and free*”から“*For we are one and free*”へ変更された。変更の際し、当時のMorrison首相は「近代国家としては比較的若いものの、先住民は古くからこの地に住んでいた」と述べている。国歌の変更に対する国民の根強い声は以前からあり、Waltzing Mathilda やオーストラリアの航空会社QANTASの広告で馴染み深いI Still Call Australia Home など非公式な国歌と呼ばれている歌もある。

先住民のことばに対する意識の高まりも見受けられた。オーストラリアの大学では、先住民の言語と英語が併記されている箇所が目立った。筆者が留学していたウロンゴン大学の入口にある黒い石版には、2023年7月末から“Yulungah”という白い文字が“Welcome”の上段に、大きく刻まれている。“Yulungah”は、ニューサウスウェールズ州に住む先住民が話していた“Dharawal language”で“welcome”を意味する。また、メルボルン大学でも、“Welcome”と“Wominjeka”が併記された大きな青いサインボードが2017年から門に近いビルに掲げられている。“Wominjeka”

はビクトリア州に住む先住民が話していた “Woiwurrung language” で “hello/welcome” を意味する。どちらの言語もすでに話者はおらず、絶滅言語となっている。メルボルン大学では、大学の旗とオーストラリア先住民の旗が、ともに掲げられていたし、シドニー大学の構内には、国旗と並び、2つの公式な旗が掲げられていた。

先住民のことばを尊重しようという試みは、ほかにも存在する。“Uluru”は、オーストラリア大陸の中心部に位置する観光名所で、先住民にとっての聖地である。英語名 “Ayers Rock” という名称の方が日本では有名かもしれない。“Uluru” は、その地域に住む先住民が話す “Pitjantjatjara language” の固有名詞である。オーストラリア国内では、近年 “Uluru” という呼び方が推奨され、公式に併記する場合は “Uluru/Ayers Rock” と先住民の言語が先にくる。なお、“Uluru” は、2019年10月26日から観光客の登山が禁止となった。筆者が、留学時の2005年に訪れたときは、多くの観光客が “Uluru” の登山を楽しん

でいた。登山といっても巨大な一枚岩で滑りやすく、“Uluru” の岩肌には登山用の鎖が打ち込まれ痛々しかった。登山口の看板には、滑落事故が頻繁に起きていること、先住民にとっての聖地で登山を控えてほしいことが記載されていた。この看板を読んで筆者は登ることができなかった。

上述の例は、今夏のオーストラリア滞中で目に留まったほんの数例に過ぎない。先住民と彼らのことばや文化に対する意識の高まりは、世界的な潮流に加えて、オーストラリア国内における先住民と非先住民の格差をなくすための活動 “Closing the Gap” に影響を受けているようだ。“Closing the Gap” の本来の目的は、先住民と非先住民の社会経済的格差を埋めることであるが、先住民や彼らの文化やことばを身近に接することで、先住民と非先住民との心的な差を縮めることにも貢献しているように見受けられる。今回、憲法改正は否決されたが、今後もこの流れは続くだろう。終着点がどこに向かうかを考えると大変興味深い。

(成城大学准教授)

会長つれづれ考

日本人がおおらかさを取り戻せる 2024 年を願って

小川 貴宏

2023 年もいろいろなことがありました。会員の皆様にとってよい1年だったでしょうか。今回は9月にお話をさせていただいた、日本のよき伝統である「サービス業が客を大切にす文化」と昨今の過度なクレ

ームを入れる風潮について考えてみたいと思います。

海外に行くと、商店や飲食店の店員が必ずしも日本の標準からすると愛想がいいとはいいがたい状況に遭遇された方も多いの

ではないでしょうか。もちろん、客の人種に対する偏見もあるかもしれませんが、私も英国やヨーロッパで理不尽なほど冷たい接客にも遭遇した経験が何度かあります。

一方、日本では店員は(マニュアル的なものはあるかもしれませんが)お客の質問や要望に最後まで親身になって付き合ってくれることが多いと感じます。昭和の時代にとある大御所の歌手の方が「お客様は神様です」と言ったとか言わなかったとか。それがとりもなおさず、(間違っただけで)良くも悪くも昭和から平成にわたる日本のサービス業の金科玉条になっていった気がします。(もちろん、それ以前から自然に日本のサービス業に根付いた文化だったのかもしれませんが。)いずれにせよ、この精神は日本が世界に誇れる「美德」の1つだと考えることができます。

ところが、おそらくはSNSの発達も1つのきっかけになったのかと思いますが、個人が自らの思ったこと、あるいは不満に思ったことを24時間世間に向けて発信できる時代になって、誰でも理不尽なクレームを世間と「共有」できるようになりました。

そのため、自分の普段の生活の不遇を何の関係もない企業のカスタマーサービスにぶつけたり、あるいは非常識なクレームでSNSでの炎上を匂わせて企業や店舗を脅し、金銭的利益を得ようとする輩(やから)も昔以上に増えてきているようです。

ネットの民は意外にそういったところは冷静で、有象無象のクレームに対して、理にかなったものは「いいね」を押すが、理不尽なものに対しては徹底的に無視するか投稿者をたたくので、まあ私は割とネット上の反応を見ている限りでは今のところすつき

りすることが多いです。

おそらく一番理不尽な思いをしているのは、個々のモンスタークレーマーに個別に対峙していかなければならない企業のフロント(広報やカスタマーサービス)の方々、そして時に保護者から過度な要求はクレームを受けてもそれに対応しなければならない学校教育の現場の先生方かもしれません。

そうしたクレマーが増えた結果、企業はコロナを理由に電話によるカスタマーサポートを閉鎖し、教師の中には「面倒なことには一切かかわらない」と守りの体制に入ってしまうことも起こっています。要は、理不尽なクレームの増加が日本のよき伝統の1つである、サービス業(私は教師もサービス業の1つかなと思っています)の側の質の低下を招く、あるいは善意の芽を摘んでしまう要因にもなりかねないのです。

今年あった、迷惑なクレームの代表とも言えるのが1つは福島原発の処理水の海洋放出に対する中国からの電話攻勢。もう1つは、今年は特に人間の生活圏に下りてきて時には人的・物的被害や恐怖を与える熊が全国的に急増しているようですが(温暖化で冬眠に入る温度まで下がらないというものもあるそうです)、そうした中、「(ただ単におなかですいて人里に下りてきただけなのに)熊がかわいそう」という「クレーム」の電話全国各地の自治体にしつこく入れ、自治体側が丁寧に説明しても「逆切れ」するばかりで長時間自治体の業務を妨害する人が何人も出たそうです。

これも「クレーム時代」の大きな弊害の1つではないでしょうか。こういう人には、(もちろんモザイクをかけて)熊による被害の実際の写真を送り付けて「これでもあ

あなたは『熊がかわいそう』とおっしゃいますか？」と問いかけてみてもいいと思います。

(それでもおっしゃるでしょうけどね。)

そうした理不尽なクレームがまかり通る一方で、本当に常識がない行動をする人や、あるいは被害者や(ある意味「被害者」である)国民の気持ちを逆なでするような発言を繰り返す人々も目に付いた1年でもありました。

飲食店で不衛生なことをして全国的に悪い意味で脚光を浴びた人々。あれらの事件ももう記憶のかなたですが、2023年の出来事でした。また、自動車修理・販売会社、男性アイドル事務所、学生寮での大麻所持・使用事案が発生した教育機関、そして日本で唯一無二の歌劇団。それらが開いた会見でのトップのあまりにも無責任な発言も問題になりました。

その他、イベントで販売されたマフィンや軽自動車売り上げNo.1の自動車メーカーに関しても信じられない不祥事・検査不正が明らかになりました。ただ、国民が最も理不尽だと思っているのは日本の総元締めである今の政府に対してかもしれません。国民には不自由な生活を強いる中、海外へは兆単位の援助を約束していい顔をする。また、自分たちは裏金を作って、国民からはガラス張りの税金を搾り取る。そんな政府がいつまでたっても経済をよくしてくれないから国民の中に閉塞感が漂い、誰もが他人をクレームで攻撃するという社会になってしまったのかもしれません。他にも、あまりにも被害者にとって理不尽な日本の法制度とか、公共交通機関の中で騒ぐ子供を放置

する親とか、もちろん世界中で起こっている殺りくとか、私が憤りを感じるものは尽きません。そうした事柄には、国民がもっと強く「クレーム」を発するべきだと思います。

最近仕事でも何でも「共有」ということがさかんに言われるようになりましたが、日本人、そして人類が他の人の気持ちを思いやる、すなわち「共有」することが大切なのだと思います。

暗い振り返りになって申し訳ありませんでしたが、23年の愚痴は過ぎ去った年に置いていきたいと思い、また世の中のよくしたい部分を明らかにすることで意識を持ちたいと思い、あえて長々と書かせていただきました。

最後に、当会での来年の抱負について。AJELCではこれまで、「来る者は拒まず、去る者は追わず」というスタンスで運営させていただいてきましたが、私の求心力のなさからそれではダメだと他の学会を見て思うに至りました。来年度はもっと老若男女に会員の輪を拡げ、若い世代にもつなげていける学会にしていければと思います。また、皆さんと「楽しい」「面白い」をもっと共有できるAJELCにしていけたらと思います。

2023年は運営・ご参加において会員の皆様には大変お世話になりました。2024年が皆様にとってまたよい1年になりますように。言語・文化を通じて日本の憂いを追い払い、明るい「登り龍」の1年にしていきたいでしょう。

(成蹊大学教授)

第 18 回年次大会報告

2023 年 6 月 10 日（土）13:00 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

* 基調講演および対談については、要綱に掲載した要旨を転載いたします。なお、当日配布された資料のうち、基調講演者である安井泉先生からから了解の得られた資料を本 Newsletter の最終ページに掲載いたします。

基 調 講 演

「ことばを理解する」とはどういうことか—文学を編む英文法— 編み上げられた文学をほどく—

安 井 泉

ことばは、話し手が世界をどう認識しているかを表している。ことばは写真ではなく、絵画である。話し手の認識は、ことばの選択とことばの並べ方に反映されていく。英文法の智恵を的確に活用すれば、揺るぎない英語の理解ができるはずである。英文学などから引いた一見すると簡単にみえる英語表現を例に取り上げ、「語学は文学を支え、文学は語学を豊かにする」という視座から、「編み上げられた文学をほどくと、その英文は英文法と文化に裏打ちされたものである」ことがわかる。さらに、英語を深く理解するには、柔軟な思考と共に確かな拠り所、すなわち、文法が必要になることを考える。

大学での授業の進め方、2022 年 10 月に刊行された『英文法総覧 大改訂新版』（安井稔・安井泉）（開拓社）の執筆の経緯などの話を皮切りに、「英語は語順をいかに決めているか」について、語彙の並びの決定に関わる因子、否定と語順・倒置の関係、不変化

詞の有無と話し手の意図との関係 (shoot the bear vs. shoot at the bear, kick the door vs. kick at the door) などを、「意味と形は一对一の対応をなす」という Bolinger (1977) の考え方を「意味と形の図像性」の本質の一つに安井 (1982) 以来考えてきた「近いは近い、遠いは遠い」という意味と形の有契的対応という考えを導入する。

動詞表現という展開形と名詞表現という圧縮形を文法的メタファーの視点から取り上げ、展開形は時を固定するのに対して、圧縮形は時を固定せず、場合によっては動作主も指定しないことをみる：We should clean the statue. vs. We need a good clean. など。

ことばの意味を深く探るという視点から、以下の例を論ずる——East Wind, West Wind (Mary Poppins, 1934), hear が意味するもの, Sesame Street, warm (global warming), According to John が意味する責任転嫁, with his apron/on his apron, 最上級は意味が一番弱い (He is the tallest boy in our class.), There

was a flagstaff in the garden, and on the roof was a gilt weathercock shaped like a telescope. (旗を掲揚するポールが庭にそびえていた。屋根の上に目をやると、そこには金色に輝く風見があり、望遠鏡の形をしている) (*Mary Poppins*), No news is good news. vs. Good news is no news. (Elizabeth II 女王の英語), jam every other day (*Through the Looking-Glass and What Alice Found There*, 1871), 否定辞と語順 (In not many years **Christmas will** fall on Sunday. vs. In not many years **will Christmas** fall on Sunday. [倒置]), on か with か (with the pin vs. on the pin; He wiped

his hands with his apron. vs. He wiped his hands on his apron. Cf. Wiping his streaming eyes on **his jacket sleeve**, Hagrid swung himself on to the motorbike...), wash off vs. wash out, Where's my shoe?, The door opened. vs. The door was opened., The more, the better., Don't let's do anything silly. これらの英語表現を正しく理解するに至る道筋は、知的昂奮にあふれた発見の喜びの連続になる。発見の喜びこそ学問の楽しみであることを体感する。最後に、エッセイ「本の読み方」(安井 2021) を紹介した。

(筑波大学名誉教授)

対談

「日本の英語教育—過去・現在・未来—」

小池 生夫
奥津 文夫

要旨：小池生夫

1868年(明治元年)に明治新政府が発足した時に東大や慶應義塾が採用した英語コースは正則と変則であった。正則は **native teacher** が教えるコース、変則は日本人が教える英語コースである。明治政府は明治の中期に外国人との再雇用契約を中止したことにより英米人が帰国し、変則中心になっていく。これは大正、昭和の終戦後にも続き、日本式英語教育の原型が完成した。受験参考書、英文学叢書、Shakespeare 全集の翻訳などがその結果である。聞く、話すなどへの関心は低いままであった。ギリシャ文明などでもたらした長い人類の世紀をかけて

の演繹法、帰納法の教授法は日本では文法規則中心の演繹法に比重が傾き、個々の文から法則を発見する帰納法は重視されなかった。これは第二次世界大戦後もしばらくつづいた。政府が英語教育で国の基本政策を国際交流に置いたのは中曽根内閣の臨時教育審議会の第2次答申(1986, 昭和61)においてで、それだけ国際競争の激化がはじまったことによる。それを受けてコミュニケーション能力養成へ転じたのが「高校学習指導要領告示」(1998)におけるコミュニケーション能力養成であり、入試にリスニング導入(2007)、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言」(2011)におけ

る「CEFR 導入による英語力の国際共通能力」評価基準の導入、「小学校～高校指導要領」でのコミュニケーション能力養成である。正則の日本人化とグローバル社会の到来に対応できる人材の多量供給の必要性。欧州、英国連邦、アジアにおける英語能力の測定を CEFR 方式による国際基準を欧州ばかりでなくアジア、南米にも広げていく。少なからざる国でこの英語力評価政策を造る傾向がでてきたのはグローバル化現象である。

わが国の英語教育政策は 2008 年(平成 20 年)、2022 年の新学習指導要領にみられる

要旨：奥津文夫

1. 本学会創設の経緯と目的 (2005 年)

発起人：村田年、池内正直、加藤忠明、清川英男、馬場千秋、森住衛、奥津文夫

——『日英語の比較—発想・背景・文化』（三修社）の編集委員

顧問：浅野博、小池生夫、長谷川潔、羽鳥博愛、行方昭夫 代表幹事：馬場千秋

2. 創設の目的：言葉と文化とその教育に関心を持つ様々な分野・年齢の人達(中高大の教員、院生、大学教員と定年退職者、英語塾経営者、実業界出身者など)が集い、情報交換と研究を続け、かつ友好関係を深める有意義で楽しい学会を作る。

3. 英語教育の最終目的：日本人と異なる思考形式に接することにより複眼的思考を身につけ、広い視野に立って考える人間を育成し、同時に日本語と日本文化の魅力を再

ように、より運用能力を高め、語彙を大幅に引き上げ、英語での授業を原則とし、discussion, debate を授業に組み、英語 communication 能力を引き上げる政策によって、グローバル世界に適応する英語コミュニケーション能力と積極的態度の養成をはかる状態になってきている。

これを受けて日本の英語教育政策は国民の英語力の質と量をひきあげる政策に注力を注ぐべきである。英語教育の未来は現役の諸氏がつくるべきである。そのための示唆を対談でしたい。

(慶應義塾大学・明海大学名誉教授・
本学会顧問)

認識することにより、人格形成と世界平和に貢献する人材を育てる。

日英の言語文化比較の大切さと楽しさ(文化がことばの中で息を潜めている一安井泉氏)

1. 自然感と人間観(自然との融合を目指す—自然を征服した所に文化がある)

「古池や蛙飛び込む水の音」「松島やああ松島や松島や」

人間中心の表現：「ここはどこ？」Where am I? 「それ本当？」Are you honest?

2. 肯定表現と否定表現：「これしかできません」This is all I can. 「さよなら」「有難う」

「すみません」Cigarettes Only.「葉巻禁止」

Save. 「消すな」

3. 人為志向と自然志向 (察しと思いやり)
「あなたお茶が入りました」
「つまらないものですが」 「よろしくお願
いします」 Nice to meet you.

4. 論理的と感性 (情緒) 的

Don't wear out your welcome. 「客と白鷺は立
ったが見事」

Love laughs at distance. 「惚れて通えば千里も
一里」 Last touch. 「おみやげ」

5. 男と女

A woman without a man is like a fish without a
bicycle. 「藁で束ねても男は男」

Bible による男と女

* It is a cat.

(和洋女子大学名誉教授・
本学会名誉会長)

第 83 回定例研究会報告

2023 年 9 月 9 日 (土) 14:30 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

研究発表

Jane Austen の作品にみられる Romanticism の影響 — *Persuasion* を中心に —

木村 郁子

Jane Austen はロマン派詩人たちと同時代に創作活動をしながら、前の時代の作家である Richardson や Johnson, Cowper, Burney を好み、現実世界に生きる中・上流社会の人々を観察し、日常に起きる事柄を通してその人間性や微妙な心理の動きを、ユーモアを交えて描く作家と考えられている。ロマン派詩人たちの想像力や直観を使って、日常的な世界から抜け出し、感情

を吐露し、自然と触れ合い、自然の美しさを讃美するという作風とは異なると言われている。しかし私は Austen もロマン派詩人たちと同様ヨーロッパ世界が大きく変わる時代に生き、Romanticism の風にあたることで影響を受け、Romanticism の特徴である人間の自由な意志や権利を尊重し、古い考え方や体制から脱却し、自然と人間とのつながりを求めた姿勢が特に彼

女の後期の作品に表れていると考えている。今回の発表では、Austen の最後の作品である *Persuasion* を中心に、このような Romanticism の影響がどのようなところに見られるかを検証した。

まず人間の自由意志と権利の主張は、ヒロインの結婚に対する意思の主張に見られる。*Pride and Prejudice* の Elizabeth はかなりはっきりと自分の意志を表明している。Collins 牧師のプロポーズを断る時は、自分を *thinking creature* と考え、はっきりと自分の意見を述べられる人間だと見なし、欲しいと訴えている。また、Darcy の最初のプロポーズを断る時は、なぜ彼を好きになれず、結婚できないかを強い言葉で主張し、Lady Catherine には自分の人生は自分で決めると言い切る。家柄や財産で結婚が決まり、女性が自分の好きなように生きられなかった時代には考えられないような発言である。*Persuasion* の Anne は Elizabeth と異なり控えめな女性であるが、結婚に際して地位や財産よりも人格を重視する点は Elizabeth と同様だ。貴族の出である彼女は若い時は、母親代わりの Lady Russell に従うしかなく、地位や財産のない軍人である Wentworth のプロポーズを断らざるを得なかった。しかしこの苦い体験から彼女はロマンスを学んだと言い、それ以降自分の感情に従って生きることを決意する。そして8年後 Wentworth と再会した時には、Elliot 家を継ぐことにな

る親戚の Elliot 氏に慕われても、Wentworth との結婚を選ぶ。この結婚により、Anne は貴族社会から脱出し、新しい世界へと踏み出すことになる。また階級社会が崩れつつあった社会に適応するかのように Anne は社会的地位の低い人でも尊敬すべき人格を持つ人々との交流を深め、古い階級制度にこだわらないリベラルな考え方を持っている。Anne にこのような考え方、生き方を選択させた Austen は古い体制、考え方を否定したと思われる。また、*Persuasion* では、自然描写が初期の作品より多く取り入れられており、自然描写を通して Anne の心情が読者に伝えられている。Anne の好きな秋の田園風景を描写することで、若さの盛りを過ぎた Anne のやるせない気持ちを表し、Musgrove 家を去る時の Anne の沈鬱な気持ちも11月の暗い雨の日の描写に反映されている。同じく後期作品の *Mansfield Park* では Fanny が自然の *sublimity* に心打たれる場面があり、これはまさにロマン派詩人の作品との類似性を思わせる。

このように Austen の特に後期作品では人間の自由意志の尊重や、古い体制からの脱却、自然と人間のつながりの点で Romanticism の特徴を思わせる部分があり、この時代の新しい世界観 Romanticism に影響を受けたと考えられる。

(千葉大学非常勤講師)

研究発表

留学促進講座における学生の学びと成長 グローバル人材育成の観点から

仲谷 ちはる

本発表は、大学生の留学促進のための授業報告である。授業は10学部1～4年生対象のハイフレックス型の選択科目で、全14回講義のうち10回分をゲスト講師、初回と最終回そして中間2回の計4回分を発表者がコーディネーターとして担当した。本授業の目的・目標は、勤務校の目指す「グローバル人材（＝主体的に学び、考え、行動し、多様な価値観の中で、新たな未来を切り拓く人材）」育成のため、海外に目を向け、留学に挑戦する人材として必要となる素養を身につけることである。受講生は、2023年度8学部から67名（8割が1・2年生）であった。

「本論」1つ目では、3名のゲスト講師による講義の整理と達成度について言及した。それぞれの講義テーマは次の通り。

(1) 「ありがとう」を言わない人々との出会い ～人生を変えたオーストラリア先住民との生活、(2) 留学のための異文化理解 ～違いを認め、尊重しあう社会を目指して、(3) 「自文化」理解の重要性（オンデマンド型）である。講義後にまとめた受講生の「リアクションペーパー」では、たとえば「人に親切にすることは当たり前だから「ありがとう」はないけれど、大地や自然に対して感謝の気持ちを忘れないのはとても素敵だと思った」、「外国語＝英語ではないことであったり、大切なことを宇宙の旅に例えたり、自分の考え方

や視野が広がった授業であった」「自分の価値観は自分の文化に準拠しており、たとえ日本人でも所属する文化は人によって異なると学んだ」などで、講義は9割以上目標達成できた講師もいれば、講師の意図とは異なる回答も散見されたことから、達成率は7割という講師もいた。

「本論」2つ目では、発表者による振り返り講義について整理した。講義目標は、直前に受けたゲスト講師の講義を振り返り、受講生自身がグループで学び合いながら思考を深めることを目指した。工夫した点は、「教える」ことから「学ぶ」ことを主眼とした講義スタイルとし、学生の主体性を重んじた。結果は、「留学において何が正解で何が間違っているということはない」「行く国をしっかりと選ぶのかどこでもいいのか、先生によって様々な考え方がありましたがどれも正しい」「どの先生も非常に魅力的で、授業の回数を重ねるごとに留学したいという気持ちが高まっている」など、さまざまな気づきや学びがあったことが分かった。

「本論」3つ目では、受講生が翌年度（以降）の留学を実現させた割合の追跡調査結果について述べた。2021年度15名中11名（73%）、2022年度59名中19名（32%）であった。2021年度の傾向は一人で2～3回留学で行かれるときに行かれるプログラムに挑戦、学生動向は不安定であった。

2022年度では19名のうち半数以上が1学期間（または1学年間）の長期留学に参加しており、しっかり計画して長期留学に挑戦、入国制限も緩和し明るい兆しが見られた。

最後に、改めて授業全体の構成を振り返ってみた。一般に留学とは「文明の進んでいる国や地域に赴いて、実体験により、文物の知見を獲得してくること」と考えられているが、本授業では、以下の4点を重点的に取り上げ、グローバル人材とした。

- (1) 留学の目的は、教育の目的の「人格形成と恒久平和」とする。

- (2) 留学先は必ずしも「先進国」ではなく、小さな国や先住民の住む地域などを含む。
- (3) 留学で「学ぶ」だけでなく、自己の発露や日本文化の「発信」もおこなう。
- (4) 留学先の言語や Englishes の時代である英語は、間違いに臆せず、堂々と使う。

今後も、ゲスト講師と協力しながら大学生の留学を通したグローバル人材育成に貢献してゆきたい。

(明治大学特任講師)

講演

Pronunciation and Prosody for Listening and Reading

Marcel Van Amelsvoort

I was honored to be invited to give a talk to AJELC members on September 9, 2023. The title for my presentation was Pronunciation for Listening and Reading, though the focus was not so much on pronunciation teaching, but rather on the importance of positioning phonological teaching and training more prominently in language teaching to improve sound perception, which is connected to improved listening and reading comprehension.

Saying that sound perception is important for listening is a little obvious. Learners report that listening difficulties involve processing difficulties with unfamiliar accents, being

unable to catch the content of “fast” speech, missing subsequent utterances while trying to make sense of what they hear, and—critically—being unable to recognize words that they already know (Renandya & Farrell, 2010). All of these problems stem from an unfamiliarity with sounds and an extra cognitive burden from the need to divert cognitive resources to processing that should be more automatic. Clearly, it is not enough to have memorized a lot of words and their Japanese translations; learners need better familiarity with the sounds of the language, an ability to automatically recognize the words they do know just from the sounds coming into their

ears, and the ability to smoothly and automatically recognize morphological variants, in addition to vocabulary depth and grammatical knowledge (In'nami, et al., 2022). Learners need more practice with listening overall, and more deliberate practice with unfamiliar sounds (that is sound not found in the L1), multisyllabic words and morphological variants of words they may partially know. Reductions due to prominence and prosodic elements can also cause problems for learners, and these are rarely dealt with in standardized texts (Lengeris, 2012).

Most learners, and indeed many teachers, of English may be surprised to find out how important sound processing is for reading. According to Rayner et al., (2011) "...phonological representations clearly affect how words are identified. Further, phonological codes [including prosody] appear to be activated for most words we read, and this phonological information is held in working memory and used to comprehend text" (p. 213). Phonological processing appears crucial when learners sound out new words, add new words to their vocabulary, or comprehend longer strings of text (Ehri, 2005; Jorm & Share, 1983; Miles & Ehri, 2019; Wagner et al., 2019). While these studies are with L1 English speakers, a similar effect can be found for L2 speakers learning alphabetic languages. It seems that "...a consensus view is that efficient phonological processing is causally related to many aspects of reading including word reading, word learning, and text comprehension" (Koda, 2019). Teaching phonics for foreign languages directly and systematically is strongly recommended

(Bauckham, 2016). This is especially true for younger learners, but seems to be true for older learners as well. Among the many components of reading comprehension, decoding, phonological awareness, L2 listening comprehension, and oral reading fluency are all highly correlated (Jeon & Yamashita, 2022), highlighting the importance of sound.

Prosody is reading with proper expression, and includes the pitch, tone, volume, emphasis, and rhythm of language and [it] "plays a crucial role in communication by conveying not only linguistic information such as chunking the stream of speech in phrases, signaling new and contrastive information and [clarifying] sentences that...could sound ambiguous to the listener" (Lengeris, 2012). While rarely receiving much attention in EFL classroom, it seems that prosody helps with the learning of formulaic expressions (Lin, 2019, 2021), and helps learners deepen understanding of a text (Kuramoto et al., 2007). Indeed, in one study, prosody awareness was more predictive of reading comprehension than rate or accuracy with Japanese and Chinese learners (Jiang, 2016).

There is not enough time here to describe the various pedagogical activities that can be used to add a greater focus on sound in EFL classes in Japan, but shadowing and reading aloud (with a greater emphasis on prosody) are activities known to most teachers that can be very helpful. Greater use of dictation and a dramatic script reading activity called Reader's Theater were suggestions that I offered in my talk, along with some activities for sound

perception and connecting sound (tonic stress and contrastive stress) that can help students become more familiar with the use of sound to

communicate meaning.

(順天堂大学先任准教授)

事務局 だより

1. 会費納入・名簿整理について (重要)

会費の納入をお願いいたします。本学会では2020年度より会費納入は銀行振り込みに限らせていただいております。なお、お振込みにかかる手数料は会員のご負担になりますので、ご了承ください。お振込み時に発行される「控」が領収書に代わるものとなりますので、改めて領収書は発行いたしません。研究費処理などで問題が生じた場合には、本学会HPの「会則」第5条をご覧ください。幸いです。

https://73017e55-699a-4319-b4a0-46f79a6319aa.filesusr.com/ugd/68b70d_9f40b98972a54732a8a636ce07312f0e.pdf

書面での領収書が必要な場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

一般会員 4,000 円
学生会員 1,000 円 (院生を含む)
賛助会員 8,000 円

銀行口座：三菱 UFJ 銀行
国分寺支店 普通 0132870
口座名：日英言語文化学会事務局

2. 名簿記載事項について (重要)

名簿記載事項に変更がある方は、事務局までお知らせください。特にメールアドレスを変更されている場合は、すぐに事務局 (ajelc@hotmail.co.jp) までお知らせください。事務局から案内や Newsletter をお送りするたびに、宛先不明で戻ってきちゃうメールが複数ございます。ご本人からお申し出がない限り、新しいアドレスにお送りすることができません。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

3. 第 85 回定例研究会

第 85 回定例研究会を次の通り開催いたします。

日時: 2024 年 3 月 9 日(土) 14:30-17:00

場所: 成蹊大学 6 号館 6-301 教室

(吉祥寺駅北口バス乗り場 1・2 番から出るすべてのバスで 10 分程度)

<https://www.seikei.ac.jp/university/aboutus/accessmap.html>

開催形式: ハイフレックス (対面・オンラインいずれでも参加可能) 形式で開催します。

*会場にお越しいただく方は当日は開催日の状況に応じた新型コロナ感染防止対策 (マスクご着用など) をご準備の上ご参加ください。会場でも手指消毒・換気・席空け・機器消毒等の対策を講じて皆様のご参加をお待ちしております。

内容:

14:30-14:40 会長挨拶

14:40-15:10 研究発表 1

「英語教育における英語劇と英語落語の意義の比較—英語教員養成科目における可能性を視野に—」

藤吉大介(東京実業高等学校)

15:15-15:45 研究発表 2

「ツバル語における所有・授受表現の特徴—『ツバル語辞典』編纂中の気づきより」

橘 広司(金城学院大学)

15:45-15:55 休憩

15:55-16:55 講演

「『言葉』について考えてきたこと」

杉本真紀子(稲城市教育長)

16:55-17:00 諸連絡

17:10- 懇親会

4. 定例研究会での発表者・講演者募集

定例研究会は、3月、9月、12月と、年3回の実施で、発表者および講演者を随時募集しております。自薦他薦は問いませんので、事務局までお知らせください。なお、発表は会員の方に限ります。

5. Newsletter 発行遅れについて

本来、Newsletter は4月と11月に発行をする予定でしたが、今回、諸事情により大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。今後は大幅な遅れがないようにしてまいります。

編集後記

発行が遅くなりご寄稿いただきました先生方、また発行を心待ちにされていた先生方におかれましては心よりお詫び申し上げます。先生方のご協力により66号発行の運びとなりました。私自身の勉強の貴重な機会となり、先生方への感謝の気持ちを常に忘れないことを再認識できました。御礼申し上げます。(E.T.)

AJELC Newsletter 第66号

2024年2月17日発行

発行人：小川貴宏

編集：日英言語文化学会（AJELC）広報通信委員会 江連敏和・山崎千春・青木理香・水澤祐美子

発行所：日英言語文化学会

（〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1 帝京科学大学 馬場千秋研究室内）

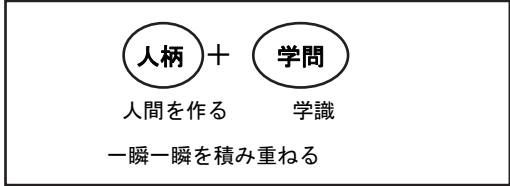
E-mail: ajelc@hotmail.co.jp

コロナの世を恨みますが、いろいろ歴史を見渡すと、祇園祭りなど、人々は、古来より、疫病退散に心をくだいていたことにも思いがいたりします。人間がずっと疫病と戦っていた歴史を知ると、少し気が楽になるような感じもします。あたり前のように生きてきましたが、生きることまたたいへんなことだったと改めて思い知ります。

(英語語法文法学会 第30回大会記念講演 安井泉 (2022年10月15日) ハンドアウトより転載。一部加筆。)



はじめに 英語教育で大切なこと 教員の資質



英文は定規を当てて1行1行大事に読む

What to teachが大事 英語教育学は本来これを深めるべき学問 英語が話せることと英語について知っていることとは異なる。英語学者は英語について知っている人。「*彼はせっかく来た」はどこがおかしいのか。

What to teachがちゃんとあれば、How to teachはついてくる

人は、教わったようにしか教えられない

なかなか恩師を越えられない → だからこそ 教える側の責任は重大

教養の英語の授業を大切に！ 教えていて、これほど楽しい授業はない。

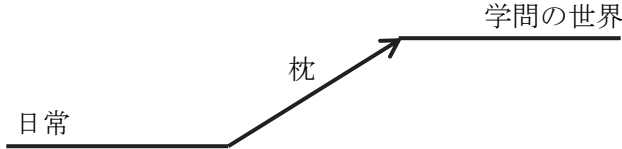
授業は口伝という形態。文字よりも多くのことを伝えることができる。

授業 同じ授業でも 毎回空気が違う

枕の勤め 枕をいかに活用できるか

「枕は自由だ」 雑談からいつのまにか 気がつくと本題のど真ん中に巻き込まれている

枕は日常から学問の世界へ段差をスロープにする機能



ことばは、話し手が世界をどう認識しているかを表している。「ことばは写真ではなく、絵画である。」話し手の認識は、ことばの選択とことばの並べ方に反映されていく。英文法の智恵を的確に活用すれば、揺るぎない英語の理解ができるはずである。英文学などから引いた一見すると簡単にみえる英語表現を例に取り上げ、「語学は文学を支え、文学は語学を豊かにする」という視座から、「編み上げられた文学をほどくと、その英文は英文法と文化に裏打ちされたものである」ことがわかる。さらに、英語を深く理解するには、柔軟な思考と共に確かな拠り所が必要になることを考える。

『英文法総覧 大改訂新版』(安井稔・安井泉, 2022) (開拓社) 【目次にある】 《 》を拾い読みする

のも良い

《 》に語法の説明を入れた 英文法はここがおもしろいというコラムになっている

英文法ってなに=あらたに序論を設けた 序論を概論で使える

文学作品からの例をいくつか入れた

索引は ここだけは読んでほしいという著者からのメッセージ
『英文法総覧』大改訂新版は、今まで書いてきた論考の集大成

1. ことばを理解するとは ことばの文法は、人間抜きには語れない。

「英語は語順をいかに決めているか」について、

語順は 1500 年頃にはほぼ確定 その確定された語順に変更を加える方法

(1) 語彙の並びの決定に関わる因子

主語-AUX の倒置には大きく 2 つの場合がある

倒置はやっかいで難しいから、英作文では倒置するな

【1】文全体が新情報である場合 Up jumped a rabbit.

【2】カメラでなめるような描写＝カメラワークのような視点の移動

There was a flagstaff in the garden, and on the roof was a gilt weathercock shaped like a telescope. (旗を掲揚するポールが庭にそびえていた。屋根の上に目をやると、そこには金色に輝く風見があり、望遠鏡の形をしている) (*Mary Poppins*, 1934) [weathercock は通例は雄鶏の形の飾りがついているが、ここでは、形状ではなく vain (風見) という機能を表す意味で用いられている。

「望遠鏡の形をした風見鶏」は決して矛盾を含む撞着語法 (oxymoron) ではない。手首にはめるのに腕時計とはこれいかに一太ももを枕にしても膝枕と言うが如し、というようなものである] (安井稔・安井泉 2022 : 31.7.1)]

【3】否定が文全体におよんでいる場合 [次の (2) 参照]

= In not many years **will Christmas** fall on Sunday.

(2) 否定辞と語順

In not many years **Christmas will** fall on Sunday. [倒置なし]

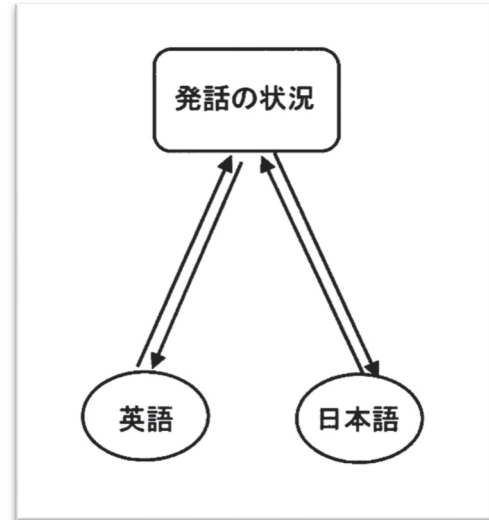
(この先何年もしないうちに、クリスマスが日曜日と重なる)

[元の文は、Christmas will fall on Sunday in not many years. である。否定辞の not は、前置されている前置詞句 in not many years (この先何年もしないうちに) [in は in two days (二日後に) と同じ未来の時を表す in] の中だけで解釈が完結し、否定辞 not が主節の定型動詞 will と結びつくことはない]

In not many years **will Christmas** fall on Sunday. [倒置あり]

(この先何年も、クリスマスが日曜日に重なることはない)

[元の文は、Christmas won't fall on Sunday in many years. である。否定辞の not は、主節の定型動詞 will と結びついているものであり、文全体が作用域となっている。「クリスマスが日曜日に重なることはありません、この先何年も」という解釈になる。前置されている前置詞句 in not many years の中にある否定辞 not は文全体を作用域にもち、もっと言えば、否定辞 not は will と結びついているので、その解釈を保証するために、主語と



助動詞を倒置させて、前置詞句の中で否定辞の not の解釈が完結することはないことをわざわざ合図しているのである] (安井稔・安井泉 2022 : § 27.5.4. 否定の前置と主語・助動詞倒置の意味)

(3) not と no の違い

not は Yes/No の単なる二分法の否定だが、no はもっと別の機能をもっている

no は「思い込みや予測がはずれたとき」[Yes-No 疑問文に対する否定の答 No も同様に考えられそうである]

no more than, no less than

no more than ten = more than ten (11 人以上) と思っていたら、そうではなく、人数は少なかった。多くて 10 人

no less than ten = less than ten (10 人未満) と思っていたら、そうではなく、もっと多かった。少なくとも 10 人

比較表現 肯定表現は不等式、等式を含めるときには必ず否定表現とする

no は二分法ではなく ベクトルを含む「程度」(degree) の意味をもっている degree words の側面がある

思い込みが 現実の観察から修正されたときに用いる [cf. He is not a scholar. 【scholar か否かの二分法】]

He is no scholar. 【scholar らしさについて述べている。二分法ではなく、scholar らしさを論じている。段階的名詞 degree noun のような扱い】(立派な学者かと思っていたら、さに非ず学者の風上にも置けない)

(4) 不変化詞の有無と話し手の意図との関係

shoot the bear vs. shoot at the bear

John shot the bear dead. / *John shot at the bear dead.

kick the door vs. kick at the door (八つ当たり)

John kicked the door open. / *John kicked at the door open.

「意味と形は一对一の対応をなす」Bolinger (1977) *Meaning and Form.* の「意味と形の図像性」本質の一つに安井 (1982)

区別可能なときは、「近いは近い、遠いは遠い」(Syntactic closeness is the reflection of semantic closeness.) という関係を示し、統語論と意味論との間には有契性に基づく (motivated) 図像性 (iconicity)

(5) 文法的メタファー (Grammatical Metaphor) 同じ内容を別の品詞を用いて言いかえる

動詞表現という展開形を、名詞表現という圧縮形で表現する——文法的メタファー

展開形は時を固定するのに対して、圧縮形は時を固定しない、さらに、場合によっては動作主も指定しないことをみる

動詞表現・名詞表現

If you drink a cup of coffee, you will feel better. → A cup of coffee will make you feel better.

We/They must/have to clean the statue. → The statue needs a good clean.

His answer is always monosyllabic. (彼は何を聞いてもいつも「あー」とか「うん」としか答えない)

Mr Noah waved goodbye. (ノアさんは手を振ってさよならをした)

John kissed Mary farewell. (ジョンはメアリーにさよならのキスをした)

The door clicked shut. (扉はカシャッと音がして閉まった)

He ran home. / He hurried home. He ran down the stairs. / He jumped down the stairs.

2. ことばの意味を深く探るという視点から

これらの英語表現を正しく理解するに至る道筋は、知的昂奮にあふれた発見の喜びの連続になる。発見の喜びこそ、勉強・学問の楽しみであることを体感する。[「知的昂奮」の表記は、司馬遼太郎が好んで用いていた]

(6) 第1章 East Wind 第12章 West Wind (*Mary Poppins*, 1934)

菜の花や月は東に日は西に (蕪村)

P. L. トラバース (P. L. Travers) の *Mary Poppins* (1934) は、第1章 East Wind に始まり第12章 West Wind [Alliteration] に終わる。

Mary Poppins の東風 (ひがしかぜ) は春風である。日本で東風 (こち) と言えば春風であるのに East Wind (東風) から始まる第1章の描写は厳寒のロンドンである。英国で言う east wind は寒いロシアからの風、冬将軍である。west wind は温かいメキシコ湾からの暖流の上を渡ってくる春風である。メアリー・ポピンズは冬の訪れとともに「北風」[east wind] に乗ってやってきて、「春風」[west wind] に乗って帰っていったということになる。East Wind は東からの風、West Wind は西からの風であることは間違いないが、それぞれの風がその文化の中でどのような風であるのかわからなければ、英語の解釈は不十分のままである (安井稔・安井泉 2022: 序論)。菅原道真が詠んだ和歌「東風 (こち) 吹かば にほひをこせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」とは風の意味が異なる

(7) hear が意味するもの=声はずれども姿は見えず

After a time she heard a little pattering of feet in the distance (しばらくすると、パタパタというかすかな足音が遠くから聞こえてきました。(『不思議の国のアリス』第2章)) / Just then she heard something splashing about in the pool a little way off (ちょうどその時、池の中の少し離れたところで、何かがパシャッパシャッと水しぶきをたてているのが聞こえました。(『不思議の国のアリス』第2章)) / And then a voice she had never heard before, “Sure then I’m here! Digging for apples, yer honour!” “Digging for apples, indeed!” said the Rabbit angrily. “Here! Come and help me out of this!” (Sounds of more broken glass.) “Now tell me, Pat, what’s that in the window?” “Sure, it’s an arm, yer honour!” (He pronounced it “arrum.”) (いままで聞いたこともない声がします。「ちゃんとここにおりますだあ! リンゴを掘っておりますだあ、だんなさあ!」「リンゴを掘っているだと、なんてこった!」とシロウサギは怒って言います。「おい! こっちへ来て、とにかくおれをここから出してくれ!」(さらにガラスの割れる音)。「パット、さあ教えてくれ。あの窓から出ているのはいったいなんだ」「うでやあでござえます、だんなさあ!」(パットは「腕」を「うでやあ」と言いました)。「腕だって。このアホ! あんなでっかい腕がどこにあるもんか。見ろ、腕だけで窓が全部ふさがっちまってるじゃないか!」(『不思議の国のアリス』第4章) (安井 2017)

なぜこうなるのか → 知っていることはすべて言え(「会話の公準」(conversational postulate) Grice 1975)

(→ 12) (Grice, H. P. 1975. “Logic and Conversation,” *Syntax and Semantics 3: Speech Acts*, ed. by P. Cole and J. Morgan, 41-58, Academic Press. New York.)

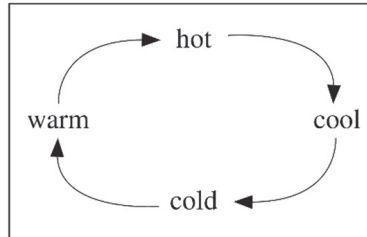
《参考》 England 対 Ireland Schoch 対 Irish (Schoch whisky 対 Irish whiskey)

(8) Sesame Street の sesame とは何 Open sesame, Close sesame.

(9) warm (global warming)

It's warm enough.

It's cool enough.



cold	冷たい
	寒い

It's getting warmer and warmer year by year. → global warming (地球灼熱化)

[「地球温暖化」の訳ではよいことかと思う]

どこまで温かくなる? warm は上向きのベクトルを含む 終着点は hot

(1 0) According to the weather forecast, ... 【話し手の責任回避の表現】

According to the weather forecast, it will fine tomorrow.

It's going to rain.

*According to me,...

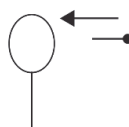
John said to Sue that according to me Jane likes Bob.

John said, "According to Robert, Jane likes Bob."

(1 1) on か with か—on は固定されているものへの接触、with は道具として動かして用いる

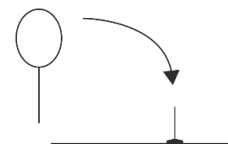
He wiped his hands on his apron.

He wiped his hands with his apron.



on the pin vs. with the pin

<burst the balloon **with** a pin>



<burst the balloon **on** the nail>

on his jacket sleeve

Wiping his streaming eyes on his jacket sleeve, Hagrid swung himself on to the motorbike and kicked the engine into life; with a roar it rose into the air and off into the night. (*Harry Potter and the Philosopher's Stone*, 1997, Chapter 1)

《参考》英国の住宅 4 番地 Mr and Mrs Dursley, of number four, Privet drive, were proud to say that they were perfectly normal, thank you very much. (*Harry Potter and the Philosopher's Stone*, 1997: 1)

road, street, walk の違い

(1 2) 最上級は意味が一番弱い (He is the tallest boy in our class.)

(13) Elizabeth II 女王の英語

No news is good news. (① 良いニュースは一つもない、② 便りのないのはよい知らせ)

[有標の解釈が、インパクトのある意味として諺として残る] Good news is no news. (良いニュースばかりが目につくということは悪いニュースはない、と言うことでは [エリザベス女王])

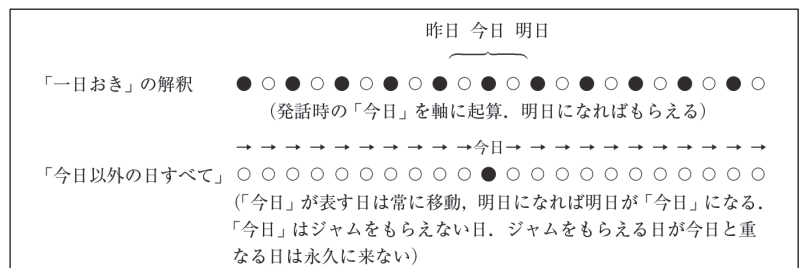
in my salad days

salad days は「青年期」の意味。演劇の題などにも用いられる。エリザベス女王が戴冠式の折に行ったスピーチにもでてくる。エリザベス女王は21歳の誕生日の時に行った誓いに言及して **Although that vow was made in my salad days, when I was green in judgment, I do not regret nor retract one word of it.** (その誓いを述べたのは、私がまだ若い頃で、何か判断をするには若輩のときであったが、その誓いの一言たりとも後悔はしていないし、撤回するつもりはありません (4 May 1977) 即位 25 周年] (安井稔・安井泉 2022: 41.3)

(14) イディオムの英語

jam every other day

- (1) 今日以外の日ならいつでも
- (2) 一日おき



Two pence a week, and jam every other day.

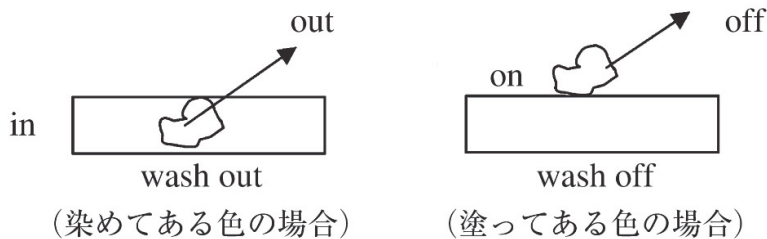
(お給金は週に2ペンス、それと、一日おきにジャムということでどうかしら) [jam は Upper Class の英語。preserve は non-upper] (レイス・キャロル『鏡の国のアリス』(Through the Looking-Glass and What Alice Found There, 1871) (安井泉訳・解説, 2005) 第5章), 安井稔・安井泉 2022: 12.1)

jam vs. preserve 《上流階級の英語はどっち》単刀直入なもの言いが上流の英語

(15) wash off vs. wash out

Look. The colours have begun to wash out. (ねえ見て、色落ちしてしまうわ) 【染めてある色】

Look. The colours have begun to wash off. (ねえ見て、色落ちしてしまうわ) 【塗ってある色】



(16) 単数か複数形か—Where's my shoe?

(17) 人の気配、関与を消し去る手法

(17a) 開いた・開けた、倒れた・倒した

(17b) **The door opened.** vs. **John opened the door.**

The door opened. (扉が開いた) vs. The door was opened. (誰かによって開けられた)

Open the door! [cf. Open sesame./Close sesame.] (→ (8))

人の気配を消す・動作主を消す

The door clicked shut. (扉がカシャッと音を立ててしまった)

“The Killers” (Earnest Hemingway 1927 *Men Without Women* に所収)

The door of Henry’s lunch-room opened and two men came in. They sat down at the counter.

‘What’s yours?’ George asked them.

‘I don’t know,’ one of the men said. ‘What do you want to eat Al?’

‘I don’t know,’ said Al. ‘I don’t know what I want to eat.’

(18) 「the + 比較級, the + 比較級」

the more, the better 意味は比例 = 【正比例か反比例】 欲深助長教育

The more he thought, **the more** perplexed he was; and **the more** he endeavoured not to think, **the more** he thought.

(Dickens, *A Christmas Carol*, 1843) (安井稔・安井泉 2022: §26.4.2)

[he は主人公の高利貸し Scrooge] (すでに亡くなっている同僚マーレーの亡霊 (Ghost) と遭遇したあと)
(スクルージは考えれば考えるほど、何が何だかわからなくなるのでした。考えないでおこうとすればするほど、考えてしまうのでした)

The more I read, **the more** I find we’re one in mind and heart.

[ミュージカル *She Loves Me* の劇中歌 *I Don’t Know His Name* の一節] ((文通相手の) 彼の手紙を読めば読むほどわかってくるの、私たちは考えていることも心も一つだということが) [mind は精神, heart は心. mind and heart は「理」も「情」もということ (⇨16.2.3.3)]

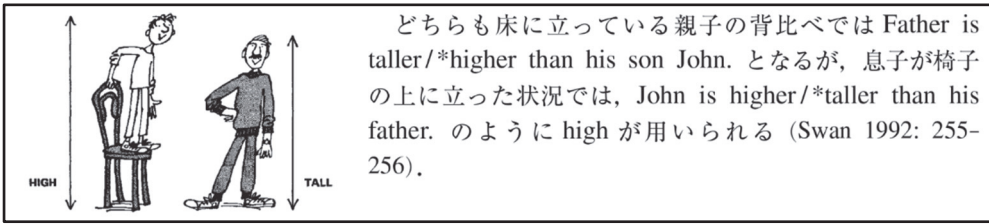
(19) **Don’t let’s do anything silly** (甘い親)

‘Now, Violet,’ said Mrs. Beauregarde, her mother; ‘**don’t let’s do anything silly**, Violet.’ (Roald Dahl *Charlie and the Chocolate Factory*, 1964) (「ねえ、バイオレットちゃん、お母さんのボールガード夫人は言いました。「お利口さんに見えないことはしないでおきましょうね、バイオレットちゃん」) [この let’s はお母さんもやめておくからあなたもやめておきましょうねという意味になるので「あなた、やめなさい」よりはずっと弱い甘い親の指示になる]

(20) **Alice is ten inches high.** (『不思議の国のアリス』第1章)

“What a curious feeling!” said Alice. “I must be shutting up like a telescope!”

And so it was indeed: **she was now only ten inches high**, and her face brightened up at the thought that she was now the right size for going through the little door into that lovely garden. 背の高さの描写は tall ではないのか??



tall は細長い形状・
high は幅もある

(安井稔・安井泉 2022: 162)

(Swan, M. 1992. *Oxford Pocket Basic English Usage*. Oxford: Oxford University Press.)

tall は「育たない」「成長してない」と使えない。成長しないと tall は不適格 成長ではない場合は high

tall, high, wide, broad, deep

これらの語の違いは、「線・面の広がり」か「点と点の距離」

	面	点と点
地上	tall	high
地上	broad	wide
地下・奥	deep	

wide span, *broad span [span は点と点]

height, width と名詞形になるのは、bias のない形容詞に対応する名詞形

John is taller than Bill, but actually they are both short.

3. まとめ —— 最後に

科学は分類にしのぎを削ってきた。分類が済めば、それでわかったつもりになっていた。しかし、物事は、複雑に絡み合っている。考えに行き詰まったとき、まったく関係ないと思われる分野に助けられることは多々ある。凝り固まらず、意固地にならずに、ものごとを自由に眺めてみるとよい。こういう時、哲学者 小林秀雄の「科学者というものは、どういう方法を用いてその方法の中から出られないかということをよく考えなきゃいけないんです」(小林 2004) ということばを思い出す。

小林秀雄.2004.『小林秀雄講演 第二巻—信ずることと考えること』(CD). 東京:新潮社.

『英文法総覧』大改訂新版の読み方

解説や《 》(目次にあり) などが多いが その理由は英文法は枝葉がおもしろいから

索引 索引の数が改訂版より減っている理由

索引は著者から「この本のどこを読んで欲しいか」という読者への手紙

『英文法総覧』改訂版の索引は詳しすぎるし、必要ないものまで含まれている。索引の項目が多すぎた、一つの項目に対して参照のセクション数が多すぎたなど反省にもたっている。索引は極力絞った

索引について——自分専用の索引を作る == 下記の 安井泉 (2021) 「本の読み方」(QR コードよりダウンロード可能 期限 2023年6月27日(火)まで) が参考になる

エッセイ「本の読み方」(安井 2021)・赤旗 ウサギエッセイ を紹介-----

1. 安井泉 (2021)「本の読み方」(『筑波英語教育』42号, 1-11) は、
2. 赤旗エッセイ ウサギエッセイ

以上2点は 次ページの QRコードのギガファイル便よりまとめてダウンロード可能

2023年6月27日(火)まで (<https://xgf.nu/DEJe>)



アリスについての論考—ルイス・キャロルに関するエッセイ多数
(ルイス・キャロル協会ホームページにて検索可能)

<http://lcsj.sakura.ne.jp/>

第24回神奈川大学英语教育研究大会 講演 2023年1月19日 記事

短縮URL <https://onl.bz/g3y9Dts>



(参考) 主要著書

- 安井泉 1982. 「英語の統語構造における図像性について—近いは近い遠いは遠い—」『言語文化論集』(筑波大学紀要) 13, 109-141.
- 安井泉. 1992. 『音声学(現代の英語学シリーズ第2巻)』東京: 開拓社. (市河賞)
- 安井泉. 1997. 『動詞(現代の英文法第6巻)』東京: 研究社.
- 安井泉. 2005. 『地下の国のアリス』東京: 新書館.
- 安井泉. 2005. 『鏡の国のアリス』東京: 新書館.
- 安井泉. 2006. 『メアリー・ポピンズは東風によって—紅茶の英国 英国の紅茶 ことばからみる英国文化論』東京: 北星堂. (エッセイ)
- 安井泉. 2010. 『ことばから文化へ—文化がことばの中で息を潜めている—』(開拓社言語・文化選書18). 東京: 開拓社.
- 安井泉. 2013. 『英語で楽しむ英国ファンタジー』東京: 静山社.
- 安井泉(編). 2013. 『ルイス・キャロル ハンドブッケーアリスの不思議な世界』東京: 七つ森書店.
- 安井泉. 2015. 『子ども部屋のアリス』東京: 七つ森書店.
- 安井泉. 2017. 『対訳・注解 不思議の国のアリス』東京: 研究社.
- 安井泉. 2019-2020. 「東映事業部主催『不思議の国のアリス展』(学術監修) 全国7都市(神戸、松本、横浜、福岡、静岡、名古屋、新潟)を巡回.
- 安井稔・安井泉. 2022. 『英文法総覧 大改訂新版』東京: 開拓社.

日本ルイス・キャロル協会 (<https://lcsj.sakura.ne.jp/>) 協会誌 *MischMasch* 11号より編集主幹 2023年11月に25号を発行予定(この間、編集後記を執筆 毎号にアリスとキャロル関係の論文執筆)
(https://lcsj.sakura.ne.jp/pub_contents.php)

《自己紹介》-----

安井 泉 (やすい いずみ)

筑波大学名誉教授 英語語法文法学会名誉顧問、日本ルイス・キャロル協会会長

専門は、英語学、言語文化。英語学(意味の音声への反映。意味と言語形式との図像性(言語形式はいかに意味を反映するか、その背後にある有契性)。言語文化(ことばを指標とする文化論)。